

「広範囲脳梗塞における側脳室非対称性と脳腫脹増悪の関係についての後方視的検討」  
のお願いとお知らせ

広範囲脳梗塞は、時間経過と共に脳腫脹が増悪し、脳ヘルニアとよばれる状態を来し得る重篤な疾患です。これまで、様々な方面から広範囲脳梗塞患者さんの脳腫脹の増悪を予知する因子について検討が試みられてきましたが、有用なものはありません。一方で、重症の頭部外傷も広範囲脳梗塞と同様に脳腫脹が増悪することが知られていますが、近年、重症の頭部外傷において「側脳室の非対称性」（注：脳には、脳室とよばれる髄液で満たされた空間があり、その一部が側脳室とよばれ、左右に存在します）がその後の脳腫脹の増悪に関係があることが報告されました。そこで、この研究は、広範囲脳梗塞患者において、「側脳室の非対称性が、その後の脳腫脹増悪に関与するか否か」を過去にさかのぼって調べることを目的としました。本研究は防衛医科大学校脳神経外科が主管となり、当院脳神経外科との共同研究として行います。

2008年1月から2016年7月までの間に上記2施設に入院した患者さんのうち、頭部CT検査を受けられた広範囲脳梗塞患者を対象とします。入院後フォローアップの頭部CTが得られなかった方、脳室内出血を来した方は除外します。患者さんの臨床データ（年齢、性別、診断名、既往歴、内服歴、治療内容、採血データ、画像データ、経過）をカルテから収集させていただきます。画像データについては、保存的治療をうけられた患者さんに関しては、入院時から1週間目までの頭部CT画像、減圧開頭術をうけられた患者さんに関しては入院時から減圧開頭術をうけるまでの頭部CT画像を解析の対象とさせていただきます。頭部CT画像から、それぞれの梗塞範囲・体積、左右側脳室体積、正中変位を計測させていただきます。その上で、側脳室体積の非対称性を含め、正中変位の増加（脳腫脹増悪を意味します）に関与する因子について解析させていただきます。また、コントロールとして、防衛医科大学校脳神経外科に入院された頭蓋内に異常を認めない頭部打撲患者さんの頭部CT画像から、側脳室の非対称性を計測し、広範囲脳梗塞患者さんのものと比較させていただきます。

防衛医科大学校脳神経外科教授 森健太郎（主任研究者）が、患者情報を取りまとめ、解析させていただきます。これまでの既存情報のみを用い、新たに研究のために患者さんから検体を採取したり検査を行う事はありません。

患者さんの臨床情報はID等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、プライバシーが保護されます。また、当院に広範囲脳梗塞で入院された患者さん（または親族の方）で、ご自分の臨床情報を研究に使わないでほしいというご希望があれば三宿病院事務部庶務課長宛までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、診療には全く何の影響もなく、いかなる意思においても不利益を被ることはありません。